



天地誠敬信の地界觀

View of Earthly Realm based on Cheonji-Seonggyeongsin

研究概要および背景

- 東学と大巡真理会など東洋思想における地[地]の意味
- 天地敬信および三界論が登場した学術的背景
- 本研究の目的と意義

石井

東学思想の地観(地観)概念

- 東学における地造化(造化)、無為而化(無爲而化)、気化(氣化)
 - 地に対する理解は抽象的で理法的な概念として提示される
- 理法的抽象的な地概念
 - 超越天が東洋思想に再び出現する契機でありながらも、人格的神明よりも抽象的な形で現れる
- 東学の天地鬼神と大巡思想の天地神明の比較
 - 東学:天地鬼神の**概念**で抽象的に理解 大巡:天
 - 地神明の**概念**で人格的神明が出現

地観

大巡思想の神明体系と三界論

- 大巡思想における地・天地神明概念

- 九天の出現により地は人格的神明の姿で人間に出現

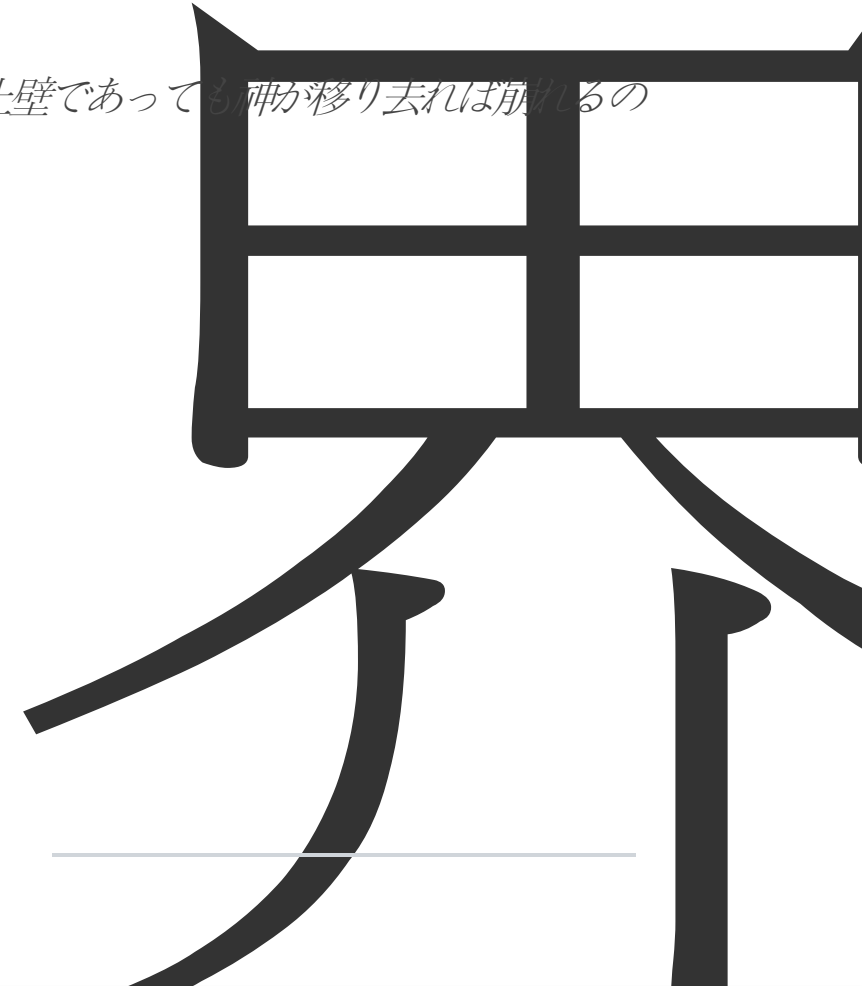
「天地に神明が満ち満ちているゆえ、たとえ草葉一枚であっても神が去れば枯れ、土壁であっても神が移り去れば崩れるの
な。」
り

- 三界(三界)と神明システム

- 天界神聖仏菩薩が集まり上帝に訴える天上公正の場
- 地界文明と形体の世界 地下文明軌天上で学び人世に施す場人間界人間のシステム、神明
- と相互作用する世界

- 神明の特殊性と人間との対比

- 神明:「真理に至極」な機械的専門家、特定分野に特化した存在
- 人間:多様な分野に広く通じる有機的存在、神明間の調和を可能にする



天地誠敬信(天地誠敬信)の意味と特徴

- 誠(誠)・敬(敬)・信(信)の統合的概念
 - 事を成就するための努力の総体を意味 自
 - 然の原理であり、人間修道の原理として
作用
- 神明と人間の解冤・報恩関係
 - 人間と神明が誠敬信を共有し相互作用 誠敬
 - 信を通じた神人依導(神人依導)の実現
- 天地化育の原理としての誠敬信
 - 大巡思想で神明の至極な誠敬信として表現
 - 「天地誠敬信」 - 天地の運行は誠敬信によって成される

誠敬

神人(神人)依導(依導)関係

- 神明と人間の相互依存的補完関係

「神人以陰陽成造化...(中略)神無人後無托而所依 人無神前無導而所依」により陰陽の造化を成す。神は人がなければ依託するものがなく、人は神なくば導き依託するものがない。

- 陰陽的調和と依託(依、引導(導)

- 神明:一分野に特化した機械的神明(真理に至極)
- 人間:複数の分野に通じる有機的存在(責任者の性格)

- 解冤と報恩の神人(神人)システム

- 神明と人間は誠敬信(誠敬信)を共有し、解冤と報恩を成す天地
- 運行における核心的な神人依導(神人依導)の相補的關係

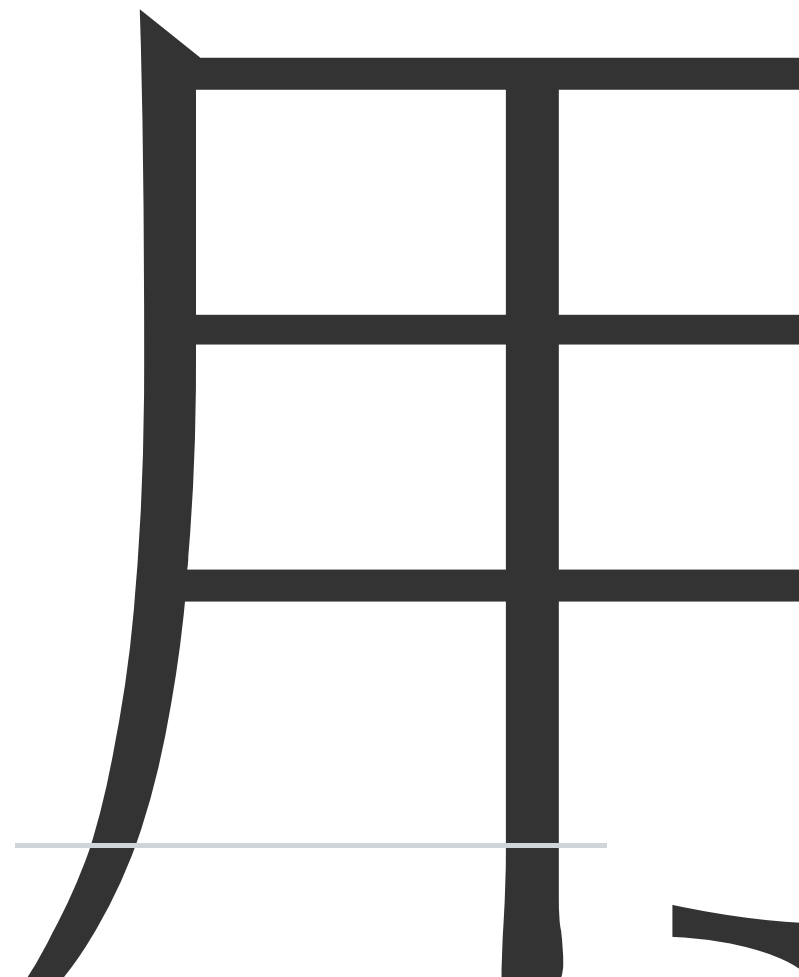
神

正陰正陽と地上天国

- 先天vs後天:正陰正陽(正陰正陽)の概念
 - 先天:天地が多重的対応関係であった時代
 - 後天:天地が1対1で対応する正陰正陽の時代
- 相生の天地関係と地上天国
 - 先天の相克関係:陽尊陰卑(陽尊陰卑)、抑陰尊陽(抑陰尊陽)、天尊地卑(天尊地卑)後
 - 天の相生関係:天国が地において成り、地が天国となる
- 大巡思想の天地関係相生化の意味
 - 「お前は正陰正陽の度数ゆえ、その気運をよく耐え受け、正心で修練せよ」(『典経』公事2-16)
 - 天地尊陽の調和を通じた天人合一(天人合一)の実現

十二運星と天地之用(天地之用)

- 十二運星(運星)の体系 - 胞胎(胞胎)、養生(養生)、浴帶(浴帶)、冠旺(冠旺)、衰病(衰病)、死葬(死葬)
| 「天地之用 胞胎養生浴帶冠旺衰病死葬而已」 - 『典經』 「濟生」 43
- 元亨利貞(元亨利貞)と体用(體用)の関係
 - 元亨利貞は天地之道(天地之道)であり、十二運星は天地之用(天地之用)
 - 体(體)である五運が現実的には六氣(氣)という用(用)として現れる
- 天地化育(天地化育)と三徳(三徳)の関係
 - 十二運星が六用(用)に分かれ、胞胎・養生・浴帶は天地人の三徳に該当
 - | 「六用三徳 三徳則天徳地徳人徳也 統合謂之大徳也」 - 『典經』 「濟生」 43



結論および意義

- 大巡思想の地界観の哲学的・近代的意味の定立
 - └ 神明システムとしての地界を通じた天地之用(天地之用)の地界観の定立
 - └ 立聖一俗の再配置を通じた近代性と脱近代性への転換
- 東西思惟の統合的意義
 - └ 東洋の凝縮的地観、西洋の質料的地観、東学の造化定の地観を統合した新たな地界観
 - └ 正陰正陽正陰正陽を通じた天地関係の相性化
- 現代的意義と後続研究の提言
 - └ リミナリティ(liminality)方式の解冤と相生概念の現代的適用
 - └ 十二運星の体用(體用)原理と現代宇宙観の哲学的連携性の研究

